



世界に希望を生み出そう

国際ロータリー 2023-2024 年度 前橋北ロータリークラブ会報

2024年4月15日（月）第1828回

会長 廣木晴久 幹事 上村哲郎

会場監督担当 湯澤 晃 委員



◇ロータリーソング 四つのテスト

◇会員数 81 名 ◇出席 74.07 %

◇ニコニコBOX 熊木朋史会員、廣木晴久会長、
上村哲郎幹事、相原佳寛会員、
田中伸志会員、塩谷勝利会員

◇委員会報告 職業奉仕委員会とゴルフ部 岡崎会員
野球部 亦野会員

◇会員卓話 角張智之 会員

◇幹事報告 上村幹事

◇会長の時間 「記念式典」

先週の職場訪問例会では塚越委員長をはじめとする委員の皆様、ありがとうございました。事業所がものすごく素晴らしく感じ、自身も見習うことが多々ありました。

4月13日（土）は相馬 RC 創立 60 周年記念式典と前橋中央 RC 創立 30 周年記念式典がありました。私と上村幹事、塩谷会長以外、小野次年度幹事と総勢 14 名で相馬に、富岡ガバナール補佐と亦野パスト会長と佐藤直前会長が前橋中央の記念式典にそれぞれ出席して頂きました。

土曜日にもかかわらず多くの会員に出席して頂きありがとうございました。相馬へは 6 時半に商工会議所を出発し渋滞に巻き込まれず、4ヶ所の PA に立ち寄ったのですが、予定より若干早く式典開始 2 時間前に相馬に着きました。式典の内容はいつもと変わらず相馬商工会議所の草野会頭の来賓祝辞は相馬産のフグについての PR のようでした。

近年、相馬付近でフグが大量に取れ、その量は下関より多いそうです。ただフグが取れても調理するには資格が必要で、資格を持った調理師がいなかった為、資格を取らせるなどの調理師の養成も行ったそうです。現在では西の下関、東の相馬とマスコミが PR しているそうです。

式典の後に気象予報士の井田寛子さんの「激甚化する気象災害に備える」という記念公演がありました。日本での最高気温は 2018 年の熊谷市と 2020 年の浜松市で観測された 41.1℃で、2000 年以降上位を占めているそうで、2023 年は観測史上最も高い暑い夏だったそうで、地球全体の気温が高い状態になっているそうです。異常気象の定義は 30 年に 1 回発生する現象のことをいうそうで、現在は地球温暖化や台風の巨大化が進んでいる状態だそうです。

その様な危機的状況から身を守るためには、耐水害住宅や避難指示で速やかに避難するなどの適応策と CO2 を発生させないエネルギー

の使用などの緩和策が必要とされています。普段から避難ルートの確認や気象庁提供のキキクル（警報の危険度分布）で災害から身を守ってくださいと説明されていました。是非キキクルで検索してみてください。

記念祝賀会ではオープニングでフラダンスの披露があり、何より美味しい魚介の洋食を頂きました。その



中には相馬のフグの揚げ物もありました。アトラクションは恒例のものまねタレントショーがあり、あっという間の楽しい2時間でした。

式典での副市長祝辞や祝賀会での市長の挨拶では市外のロータリークラブに対して支援のお礼がありましたことをご報告させていただきます。

私は日曜日に米山記念奨学生カウンセラーオリエンテーションがあったため19:02 相馬発の電車で帰ってきましたが、相馬の菊地会長から前橋の2次会はグチャグチャでしたとLINEが来たので、さぞかし残ったメンバーは2次会で大盛り上がりだったと思います。機会があったら話を聞きたいと思います。

そして昨日は米山記念奨学生カウンセラーオリエンテーションが前橋問屋センター会館でありました。午前中はカウンセラーの重要性や役割、工夫などや米山奨学生の義務、ハラスメントの防止などの説明がありました。上村幹事が出席された危機管理セミナーの内容と重複するところもあると思います。午後から米山奨学生も合流し引続き説明がありました。

今年度の米山奨学生はモンゴル出身のバイルマー タイワンバトさんでバイルマーさんと呼んでくださいだそうです。現在は群馬大学、医博課程の4年生でアトピー性皮膚炎に対するPDE-4阻害剤とJAK阻害剤の併用効果の検討という研究を行っているそうです。ご主人と小学3年生の男の子と小学1年生と4才の女の子の3人のお子さんがいて、モンゴルでご結婚されご長男を出産後、2016年に来日したそうです。日本に来てから日本語学校や専門学校等に通い、群馬大学を受験したそうで、土日も研究室に通っているそうです。5月13日の例会から出席しますのでよろしくお願いいたします。

話は変わりますが、先々週の土曜日の4月6日からNHKの新番組、新プロジェクトX挑戦者たちという番組が始まりました。会員の中にも視聴された方がいると思います。記念すべき第1回は東京スカイツリー天空の大工事～世界一の電波塔に挑む～で、建設に携わった技術者と職人たちの話でした。東京タワーやエッフェル塔は4本脚で脚の間隔を1とすると高さはその3倍程度で建設されています。しかし東京スカイツリーは3本脚でその間隔は68mしかありません、スカイツリーの高さ634mを考えると、いかに不安定な建物であるか分ると思います。

今回の番組は元請けの技術力や同業者の話だったのでとても興味深く見る事が出来ました。スカイツリーの3本の足を、それぞれ別の薦の会社が担当しました。番組の紹介では、北側が抜群のチームワークを誇る「鈴木組」、東は精鋭集団の「松村組・西中建設」、西は橋の建設を得意とする「宮地建設工業」で、1つの現場で複数の会社が合同で仕事をするのは非常に珍しいことだとなっていました。因みに、3社とも知っている会社で鈴木組と松村組の社長は群馬県出身で、特に松村組の社長の実家は私が今住んでいる家の隣です。現場での他社とのやり取りや完成間際に発生した東日本大震災の状況や後の対応など当事者でなければ知らないことが多くあってとても興味深い番組でした。

そして、八重洲の事故の続報というか対応の会議が有り出席しました。事故の原因は支保工を設置する時の荷重の計算に誤りが有り、5本つないだ梁の重量が53tあり、計算上では30t程度の荷重しか見込んでいなかった為、支保工が崩壊し事故になったようです。5本目の梁を仮接続し、クレーンのフックを下げ吊りワイヤーの緊張を解いた直ぐに崩壊したそうで、クレーンが跳ね上がったのは荷重に耐えきれずワイヤーが切断したためだと思います。

対策としては同様の支保工を設置する時は、技術課や上層部等が参画して計画するとなりました。建設現場における労災事故を防ぐ12の方法というものがありそれらを周知し災害を防いでいくことが我々建設業の事業主の使命だと思います。毎度言うようですが、事故災害の無い魅力ある建設業にしていきたいと思います。